

## 平成30年度 社会教育委員 第1回定例会議の概要

1. 日時	平成30年5月22日(火) 14:00~17:30
2. 場所	戸倉庁舎 会議室2
3. 出席者	<p>【社会教育委員】9名出席（丑丸委員欠席）</p> <p>【市職員】赤地教育長、上條教育部長、北村生涯学習課長、田島歴史文化財センター所長、竹内文化課長、高野人権・男女共同参画課長、小林屋代公民館業務係長、笠井稲荷山公民館係長、永井図書館業務係長、兒玉スポーツ振興課主任、松崎生涯学習課主幹</p>
4. 会議内容	<p>【委員会の進行状況】</p> <p>1. 開会（北村課長）</p> <p>2. 委嘱について 社会教育委員の改選があったため、全員に委嘱書を交付（教育長より）</p> <p>3. 教育長あいさつ（赤地教育長）</p> <p>4. 協議事項（進行：委員長選出まで北村課長、選出後は堀口委員長）</p> <p>（1）正副委員長の選出 堀口強委員長、小林京子副委員長を選出。</p> <p>（2）社会教育委員の活動計画について（説明：松崎）</p> <p>（3）担当地域の確認並びに分担について（説明：松崎） 今年度より育成センター「コラム」執筆担当1名（年1回）が追加</p> <p>（4）社会教育関連組織・予算について（説明：松崎）</p> <p>（5）所管施設等の事業計画について 担当課長・係長等から事業計画を説明。質問を受け協議。 説明が終わった課長・係長退出。</p> <p>（6）指定管理者制度並びに評価について 委員が資料の事前確認を行ってため説明を省略。質問に対する回答を松崎、兒玉が行った。</p> <p>（7）生涯学習基本構想・基本計画の策定について（説明：松崎）</p> <p>（8）その他</p> <p>①委員として取り組む独自課題について（松崎）</p> <p>②、③今後の日程について（松崎）</p> <p>5. 閉会（北村課長）</p> <p>【主な協議・意見・要望等】</p> <p>（○は社会教育委員の質問、▲は担当課からの答弁）</p> <p>（4）に関すること</p> <p>○田嶋委員 埋蔵文化財費が減っているが、理由は何かあるか。</p> <p>▲田島所長 毎年実施箇所が違うため、年度で行う事業の内容により金額が増減する。</p>

(5) に関すること

○小松委員

図書館のセカンドブックは重要な取り組みであり、続けてほしい。幼少期の読書体験は大人になって効果が現れてくる。市民の中に「坊ちゃん文学賞」の大賞受賞者がいるが、読むだけでなく書くことについても、こうした身近な良い人材を活用して進めていってほしい。

一流のスポーツ選手が指導してくれる夢教室についても、子どもたちは大変喜んでいる。継続してやってほしい。

○小林いせ子委員

文化会館運営委員を引き受けているが、これといった役割はない。年2回開催して、建設的な意見を吸い上げてほしい。

セカンドブックを配布した後の活用状況について考えてほしい。

○小林京子副委員長

まんが館、蔵し館の入館者数を資料に書いてほしい。観光で来ているのか、市民が来ているのかなどについて考えていかないと活用は進まない。

▲竹内課長

昨年度の利用者数については、まんが館が1,461人、蔵し館が1,654人、アートまちかどは9,418人となっている。イベントや企画を工夫してリピーターを増やしたいと考えている。

○小林いせ子委員

これまでそれらの施設の使い道についていろいろ提案してきたが、取り入れられなかった。視点を変えて考えていく必要がある。

○小松委員

まんが館や蔵し館などについて考えていくためにも、今年はここ、と決めて施設見学を行ったらどうか。

○堀口委員長

施設を知るといのは大切なこと。戸倉や上山田の人は更埴の施設を知らないし、逆も同じ。

▲松崎

これまでも施設見学の要望があって見学会を開催していた。話題に上った施設について見学できるよう手配したい。

○小宮山委員

各館では、新しいものを取り入れてやってもらっている。これだけの数をこなすのは大変なことだと思う。

○鎌林委員

大変だと思うが、続けていくことが大事との意見もある。

○堀口委員長

社会教育委員は子どもの行事に出るだけでも大変。

自然の家の事業は、環境サイドや農林サイドでも同じようなことをやっている。続けるのは職員も大変である。成人講座では、参加者を集めるのも大変だと思う。

▲笠井業務係長

「健康」が流行となっているので、それを中心にニーズに合ったものを考え、多くの市民が参加できるよう進めていきたい。

○白石委員

坊城平のトイレが使いづらいという話がある。

▲北村課長

今の子どもは和式のトイレが使えないという話も聞くので、様式のをキャンペーンシーズンとなる7・8月にレンタルで設置する予定。

○田嶋委員

毎年、城山では荒砥城まつりを開催しているが、地元の人が入っていないようで、観光客には人気がある。建物内に説明板が無いので、せめて本郭の建物内に説明板がほしい。

現在、入場料は大人一人300円だが、あまり行くことがない地元住民向けに入場料を割引してほしい。

▲田島所長

活用も含めて、検討したい。

(8) ー①に関すること

○堀口会長

社会教育委員の独自事業としては、「冠着山わくわく自然学校」に主体的に取り組んできたが、一部地域に偏っている事業であり、募集範囲を拡大するか、別の事業に移行するかについて検討しなければならない。

▲高野課長

去年は、参加児童と保護者を含めて30人ほどの事業となったが、坊城平で行う行事としては、昨年程度の人数がやりやすくて良かった。それ以上に参加者が増えると対応するスタッフの数が足りず、安全が確保できない場合も出てくる。

○鎌林委員

2年間やったので、5年くらい続けて深めていきたいと思っている。

○小松委員

募集の範囲を広げていけばよいと思う。

○田嶋委員

広く募集して3年くらいは続けてみたらどうか。

○小林いせ子委員

市内全域をカバーすべき社会教育委員の立場から考えれば、更級の地域行事にばかり注力するのは好ましいことではない。新しい事業を考えていくことも必要。今年は募集範囲を広げてやってみて、同時に別の事業についての検討を進めてはどうか。

○堀口委員長

考えなければならぬ点はたくさんあるが、今年は続ける方向で財産区等と打合せを進めていくということではいかかがか。

※各委員賛成